

様式 C - 7 - 1

平成24年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号

3	2	6	9	2
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 東京工科大学

3. 研究種目名 基盤研究(B) 4. 補助事業期間 平成23年度～平成25年度

5. 課題番号

2	3	3	3	0	1	8	3
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題 精神医療現場における多相的コミュニケーションの共創支援～開かれた関係構築に向けて

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1 0 4 5 4 1 4 1	エノモト ミカ 榎本 美香	メディア学部	講師

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 4 2 4 3 1 0	オカモト マサシ 岡本 雅史	立命館大学・文学部	准教授
4 0 3 8 1 4 2 0	ヤマカワ ユリコ 山川 百合子	茨城県立医療大学・保健医療学部	准教授
4 0 5 8 0 8 8 2	マツシマ タケシ 松嶋 健	京都大学・人文科学研究所	研究員
7 0 2 1 4 9 4 7	クシダ シュウヤ 串田 秀也	大阪教育大学・教育学部	教授

9. 研究実績の概要

1. 相互行為分析/心理統計分析による多相的コミュニケーション介入(Polymorphic Communication Intervention;以下PCI)に有効なコミュニケーション変数選択
 参加者の人数を増やし、活動の内容を変えたとしても、精神障害や高次脳機能障害などの障害名が与えられた人々(the Communication Challenged;以下CC)が会話から取り残されコミュニケーションに参加できない状態が続くなら多声化や多重化は生じない。また、会話のメモやビデオ観察などを行ったとしてもそれが単に自他批判や疾病の指摘などに留まり将来の行動変容に繋がらないならば、メタ認知化が成し得たとはいえない。そこで、会話の局所で生じている相互行為のミクロな様相を相互行為分析を通じPCIに有効なコミュニケーション変数を抽出し、他者との関係性に大きく寄与する変数を個人差を配慮した一般化線形モデルなどの心理統計分析により選択した。

2. 認知語用論分析によるPCI前後のコミュニケーションモデル考案
 1.によって選択されたコミュニケーション変数が関係性変容に対しなぜ有効なのかを検証するためには、多相的コミュニケーションを通じて主体内、主体間の変化がどのように生じていくかというコミュニケーションモデルを考える必要がある。PCIにおける多声化/多重化/メタ認知化によって相互のコミュニケーションの様相(=表出面・受容面)がどのような連関を持ちながら変化するかを適切に説明する認知-行動モデルを考案した。

10. キーワード

(1) 精神医療	(2) 実践	(3) コミュニケーション	(4) 会話
(5) 対人関係	(6)	(7)	(8)

11. 現在までの達成度

(区分)(2) おおむね順調に進展している。

(理由)

相互行為分析/心理統計分析による多相的コミュニケーション介入(Polymorphic Communication Intervention;以下PCI)に有効なコミュニケーション変数選択と認知語用論分析によるPCI前後のコミュニケーションモデル考案をもとに,多相的コミュニケーションを誘発する活動タイプや参加者を導入するPCIプログラムを考案する段階に達した。例えば,雑談では,口数の少ない参加者に対する「この件についてXさんはどう考えますか」などの発言が行われ,多声化やメタ認知化が自然に発生する。また,他の参加者の意見を言い換えたり第三者的発言をする人物が出現すると,参加者間でメタ認知化が生じる。ここでは,多相的コミュニケーションを引き起こす活動や会話媒介者の投入など,具体的なPCIプログラムを立案中である。

12. 今後の研究の推進方策

(今後の推進方策)

平成23,24年度におこなった研究成果をもとに,多相的コミュニケーションを誘発する活動タイプや参加者を導入するPCI(Polymorphic Communication Intervention;以下PCI)プログラムを考案する。多相的コミュニケーションを引き起こす活動や会話媒介者の投入など,具体的なPCIプログラムを全員で立案する。医療スタッフの研究分担者,研究協力者はそれを各施設で実践し,精神障害や高次脳機能障害などの障害名が与えられた人々の苦悩に対してより高い治癒的可能性をもつPCIプログラムへと改案を行う。研究期間終了時には,多くの精神医療現場で実践可能な具体的PCIプログラムを公開する。また,年度末には3年間の研究成果を発表・議論する公開シンポジウムを実施する。

13.研究発表(平成24年度の研究成果)

〔雑誌論文〕計(13)件 うち査読付論文 計(5)件

著者名	論文標題				
石本祐一, 榎本美香	話者移行手がかりとしての発話末の音調変化				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
日本音響学会秋期研究発表会講演論文集	無	2012	2	0 1 2	255-258
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
石本祐一, 榎本美香	発話完結可能点を示す発話末要素の後続を予測させる韻律情報				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
日本音響学会春季研究発表会講演論文集	無	2013	2	0 1 3	513-514
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題				
小谷泉, 山川百合子	リハビリテーション療法士の専門性-病院・老健・訪問の比較から-				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
均衡生活学	有	9	2	0 1 2	13-21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題			
山川百合子, 松岡恵子, 武島玲子, 定村美紀子	消防本部の救急活動からみた自殺企図の実態調査			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
茨城県立病院医学雑誌	有	29	2 0 1 3	9-14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
山川百合子	迷走神経刺激(VNS)			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
精神科	無	21	2 0 1 2	388-392
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
山川百合子	社会的行動障害 高次脳機能障害Q&A			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
リハビリナース	無	2012年秋季増刊	2 0 1 2	180-189
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
山川百合子	花でつなぐ地域の輪 フラワーアレンジメントによる心のケア 花がつなぐ被災地支援			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
地域リハビリテーション	無	8	2 0 1 3	68-72
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
Katsuya Takanashi and Takeshi Hiramoto	Designing a Future Space in Real Spaces: Transformation of Heterogeneous Representations of a "Not Yet Existing" Object			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
New Frontiers in Artificial Intelligence	有	7258	2 0 1 2	277-290
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
10.1007/978-3-642-32090-3_25				

著者名	論文標題			
高梨克也, 加納圭, 水町衣里, 元木環	双方向コミュニケーションでは誰が誰に話すのか? -サイエンスカフェにおける科学者のコミュニケーションスキルのビデオ分析-			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
科学技術コミュニケーション	有	11	2 0 1 2	3-17
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
高梨克也	多職種ミーティングにおける懸念導入表現「気になる/するのは」の多角的分析			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
言語処理学会第19回年次大会発表論文集	無	19	2 0 1 3	658-661
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
高梨克也	展示制作のための多職種ミーティングにおける問題提起の分析			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
知識共創	有	3	2 0 1 3	1-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
高梨克也	「コミュニケーション実践のコミュニケーション科学」のための試論-「当事者を交えたデータセッション」という試み-			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
人工知能学会研究会資料	無	SIG-SLUD-B202	2 0 1 2	39-46
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
高梨克也	社会的インタラクションにおける「見えるもの」としての身体			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
2012年度人工知能学会全国大会発表論文集	無	3E2-OS-16-1	2 0 1 2	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

(学会発表) 計(15)件 うち招待講演 計(0)件

発表者名	発表標題	
石本祐一, 榎本美香	話者移行手がかりとしての発話末の音調変化	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本音響学会秋期研究発表会	2012年09月19日	信州大学(長野県)

発表者名	発表標題	
石本祐一, 榎本美香	発話完結可能点を示す発話未要素の後続を予測させる韻律情報	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本音響学会春季研究発表会	2013年03月15日	東京工科大学(東京都)

発表者名	発表標題	
榎本美香, 桑原明栄子	極めのアクションが1つのエピソードユニットとなる幾つかの出来事をつなぐ	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本認知科学会第29回大会	2012年12月15日	東北大学(宮城県)

発表者名		発表標題	
榎本美香		話者交替規則の周辺: 統語・韻律・視線	
学会等名		発表年月日	発表場所
公開シンポジウム「ことば・認知・インタラクション」		2013年02月16日	国立情報学研究所(東京)

発表者名		発表標題	
Sachi Yasuda, Masashi Okamoto, Eiji Aramaki		Ad hoc Creature: Lost and Added in Translation from Description to Depiction	
学会等名		発表年月日	発表場所
the 34th annual meeting of the Cognitive Science Society (CogSci 2012)		2012年08月02日	Sapporo Convention Center, Sapporo, Japan

発表者名		発表標題	
Sachi Yasuda, Masashi Okamoto, Eiji Aramaki		Mind the Gap between Text and Real World: A Corpus-based Study on the Prototype Effects of Animal Body Parts	
学会等名		発表年月日	発表場所
4th UK Cognitive Linguistics Conference (UK-CLC4)		2012年07月10日	King's College London, London, UK

発表者名		発表標題	
定村美紀子, 奥野純子, 山川百合子, 柳久子		訪問看護における日記継続が疾病管理に及ぼす効果	
学会等名		発表年月日	発表場所
第3回日本プライマリ・ケア連合会		2012年09月01日	福岡国際会議場(福岡)

発表者名		発表標題	
Kyoko Ueno, Kayo Kurihara, Hiroaki Nishikawa, Yuriko Yamakawa		Transition in empathic nursing skill and ego-identity by age among Japanese nurses and nursing students	
学会等名		発表年月日	発表場所
Sigma Theta Tau International's 23rd International Nursing Research Congress		2012年07月30日～2012年07月31日	Brisbane Convention & Exhibition Centre, Brisbane, Australia

発表者名		発表標題	
松岡恵子, 山川百合子, 小谷泉, 金吉晴		高次脳機能障害者は自らの障害とリハビリテーションをどのように語るか	
学会等名		発表年月日	発表場所
認知リハビリテーション研究会		2012年10月06日	慶應義塾大学病院(東京都)

発表者名		発表標題	
澤俊二, 磯博康, 本庄かおり, 千田直人, 大田仁史, 嶋本喬, 山川百合子		慢性脳血管障害者の総合的追跡調査 Ibaraki follow-up study(第5報) -発病10年間のQOL推移と地域リハの課題-	
学会等名		発表年月日	発表場所
第23回日本疫学会学術総会		2013年01月26日	大阪大学(大阪府)

発表者名		発表標題	
申田秀也		処置の勤めへの「理由つき」同意:精神科外来再診場面における処置決定の応用会話分析	
学会等名		発表年月日	発表場所
第85回日本社会学会大会		2012年11月03日	札幌学院大学(北海道)

発表者名	発表標題	
Shuya Kushida	Epistemic Stance As Resource for Treatment Negotiation: On Some Patients' Responses to a Treatment Recommendation in Outpatient Psychiatric Consultations in Japan.	
学会等名	発表年月日	発表場所
111th Annual Meeting of the American Anthropological Association	2012年11月18日	San Francisco Hilton, USA

発表者名	発表標題	
松嶋健	「心の病い」から「心のエコロジー」へ イタリアの精神保健実践からみる「テリトリー化された心」の様相	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本文化人類学会第46回研究大会	2012年06月23日	広島大学(広島県)

発表者名	発表標題	
松嶋健	精神医療の医療化と脱医療化 バザリア法から30年余を経たイタリアの現状から	
学会等名	発表年月日	発表場所
第16回精神医学史学会	2012年10月28日	京都大学(京都府)

発表者名	発表標題	
Katsuya Takanashi	When does a pointing have to retract?: The semiotic nature of "stroke" of pointing gestures	
学会等名	発表年月日	発表場所
The International Society for Gesture Studies Conference 2012	2012年07月24日	Lund University, Sweden

(図書) 計(1)件

著者名	出版社		
山川百合子・栗原加代(編著)	医学出版社		
書名		発行年	総ページ数
看護ポケットマニュアル 精神科		2012	124

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

精神医療現場における多相的コミュニケーション共創支援プロジェクト
<https://sites.google.com/site/pciprjct/>